

県民の健康を未来へとつなぐ、持続性の高い大学病院を共に実現します

【業務方針】

県内唯一の特定機能病院として、また教育研究病院・地域中核病院として、求められる機能が多岐にわたります。
多様な立場の関係者の意見を総合的に調整し、100年先を見据えた新病院棟の実現に向けて、全力で取り組みます。

「環境の変化に適応し進化する大学病院」を実現するための「3つの柱」

1. 進化する特定機能病院として「医療資源」「医療情報」を効果的につなぐ
みらい軸 + かなた軸 + トリプルコア
2. 「臨床」「教育」「研究」を将来に渡って有機的につなぐ
キャンパス・リンクを軸としたマスタープラン
3. 時代の変化を見据え、医療安全と安定経営を未来につなぐ
機能・経営・運営の効率を最大化する施設

図1：未来を見据えた新病院棟のイメージ

【配置技術者の体制】

大学病院、最新病院の経験豊富なチーム編成

- 運用しながらの大学病院敷地内建替えをはじめ、公的病院や海外医療施設の動向に長けたメンバーを管理技術者・各主任技術者に配置、様々なご要望に対して根拠に基づく設計（EBD：Evidence Based Design）で取り組みます。
- コスト担当と病院CM担当を配置し、施工者（ゼネコン・サブコン・地元企業など）へサウンディング調査を複数回実施します。入札参加ニーズを的確に把握し、多様な発注方式を検討・提案することで、入札の不落リスクを低減します。

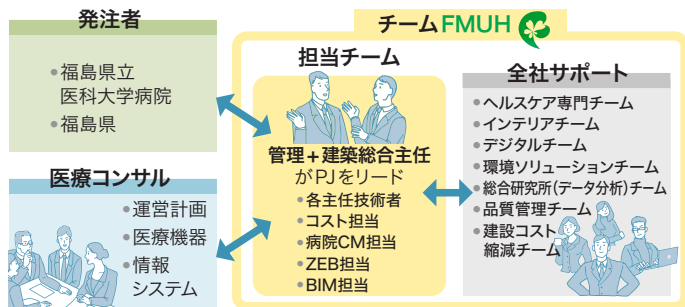


図2：担当チームのイメージ

【業務計画及び業務工程】

短期間で方針決定に導く業務推進力

- 基本構想・基本計画の正確な理解をもとに、医療コンサルと協働し、業務スタート時に精度の高い検討資料を提示して、設計期間内でより密度の高い設計を確実にまとめます。
- 短期間での業務遂行のため、重要ポイントを明確にし、毎週の定例会議や意思決定会議、十分なヒアリング期間を確保、段階的なコストマネジメントなど、後戻りのないスケジュール管理をしながら業務を確実に推進します。

建築総合主任が対話型設計の先頭に立つ

- 様々なタイプの病院設計の実績を持ち、熱意と体力のある建築総合主任技術者が設計チームを先導します。
- 定例会議は基本的に毎週開催（WEB併用など含め）、打合せが集中する設計期間は現地に常駐し、小さな困りごとなどあらゆる相談にタイムリーに対応します。
- 福島県環境を適切に理解した実績豊富な寒冷地建築・設備のスペシャリストが、設計～監理まで担当します。

「わかりやすい設計」を支える自社内のサポート体制

- 自社の総合研究所（データ分析）チームが、使われ方調査から新病院の運用開始までチームメンバーとして、人流シミュレーション、熱負荷検証などデータに基づく設計をサポートします。
- 病院のZEB認証取得実績を持つ実績豊かなZEB担当が各主任技術者に並走して設計初期段階より参画し、ZEB化を幅広くサポートします。（ZEB：Net Zero Energy Building）
- 十分なコスト縮減のため、建設コスト縮減チームがコスト担当をサポートします。

多様な立場の意見をトータルコーディネート

- 様々な関係者と徹底的な議論と綿密なコミュニケーションを図り、コンセプトと課題を共有します。テーマ別課題管理表ですべての課題を洗い出し、BIMを活用し関係者全員に見える化しながら確実な課題解決を図り、ビジョンを実現します。
- 後戻りなく様々な検討事項の最適解を導くため、分かりやすい事例やイメージを共有しながら設計ロードマップの見える化、マイルストーン管理を徹底します。

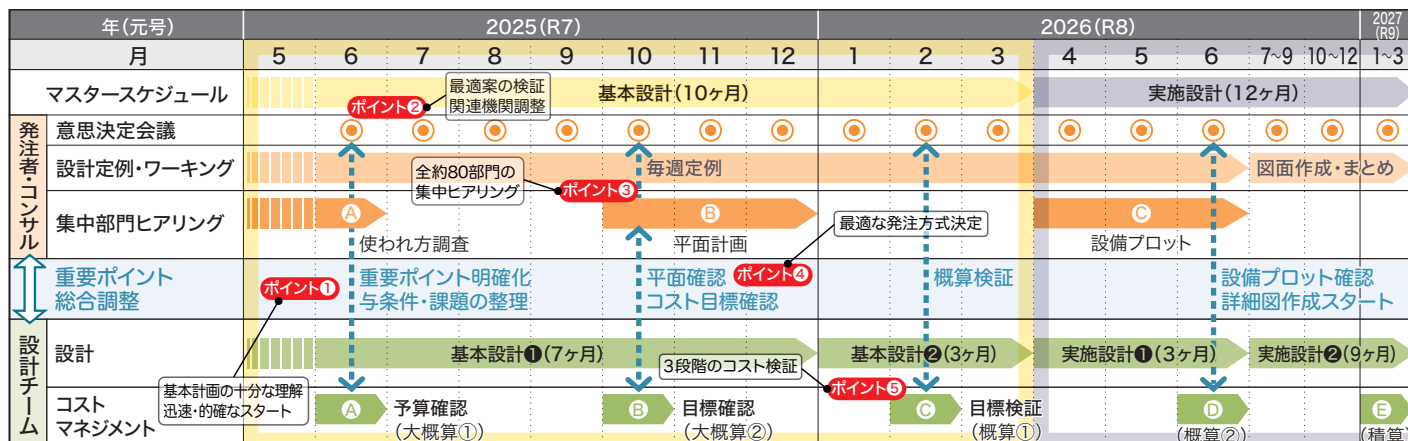


図3：業務計画・業務工程のイメージ